

みんなとともに笑顔いっぱい - 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 -



みんなとともに



めっきり寒くなりました。吾妻山の初冠雪の日には、手が冷たくて手袋がほしくなりました。桜の葉や銀杏の実も落ち始めてはいるのですが、用務職の渡邊技能主査がきれいに片付けてくれています。近隣にお住まいの佐藤さんが市に働きかけて、公園の樹木に手が入られ、すっきりしました。季節は冬へと向かっていきますが、子どもの心は「あたたかく」「ほかほか」であることを願っています。



本校の子どもたちの「自己肯定感」を高めるために その2

先日の就学時健康診断で2年前の「学校だより」を資料に使いました。令和元年度第24号の「いろいろあって当たり前。だいじょうぶ。だいじょうぶ。」です。改めて読んでみて、自分が触れられたので、続きを書いてみることにしました。(参考文献:子どもの「逆境に負けない心」を育てる本 久世浩司ら共著 法研)

【校長のつぶやき】 その93 「『励ましオウム』を肩に乗せるために」

子どもの肩には「オウム」が乗っています。そして、その「オウム」は、常に子どもにささやきかけています。そのささやきには、「ネガティブ」なものもあります。

〈ネガティブな「オウム」のささやき〉

- 心配オウム …「きっと対処できない」「ひどい結果になるに違いない」「こうなったらどうしよう」
- あきらめオウム…「自分にできるわけがないよ」「それは自分の手に負えない」「変えるなんてできない」
- 罪悪感オウム …「自分のせいだ」「全部自分が悪いんだ」「それは私の失敗だ」
- 非難オウム …「うまくいかないのは誰かのせいだ」「自分は悪くない」「あいつらが悪いんだ」
- 正義オウム …「そんなことはすべきではない」「それは正しくない」「不公平だ」
- 敗北者オウム …「私は何をやってもダメに決まっている」「自分なんか役に立たないに違いない」
- 無関心オウム …「どっちでもいい」「知ったことではない」「別に」「興味ない」

この「ネガティブなささやき」は、その子の「物事のとらえ方」から出てきます。お子さんの口から出てくる「オウム」のささやきで多いのは、どの「オウム」ですか。

では、「自己肯定感」の高い子どもの肩には、どんな「オウム」が乗っているのでしょうか。その一つが「励ましオウム」です。

〈「自己肯定感の高い子」の「オウム」のささやき〉

- 励ましオウム …「だいじょうぶだよ」「よくがんばっているよ」「やればできるよ」「がんばろう」
- そのような「励ましオウム」に変えていくために、どのようにしていけばよいのでしょうか。

〈「励ましオウム」に変えるために〉

- 「自分は人に理解され、大切にされていること」を伝え続ける。実感させる。
- 「自分が困ったときに助けをを求めることは勇気ある行動であること」を伝え続ける。実感させる。
- 「強みも弱みも含めて自分らしさを大切にすることが大切であること」を伝え続ける。実感させる。
- 「自分にはできると信じる心が大切であること」を伝え続ける。実感させる。
- 「物事のよい面に目を向けることが大切であること」を伝え続ける。実感させる。

そして、何よりも大切なことは、まわりにいる「大人」が、その「モデル」となることではないでしょうか。「励ましオウムを肩に乗せろ」と言ったから、突然「ネガティブなオウム」から「励ましオウム」に変わるわけではありません。子どもは、親や教師や自分に関わる人の姿を「モデル」として、その「生きる姿勢」を「内面」に取り込んでいくのだらうと思います。

私も「ネガティブ沼」にはまりそうになることがあります。そんなときは「過去には戻ることはできない。いまからここからだ。」と自分に言い聞かせます。そして、寝てしまいます。一晩寝ると忘れてしまうのが「自分のよいところ」です。

放課後の自習室を「いまここ学習室」と名付けています。この名には、「いま・ここを大切にしてほしい」「いまから、ここから自分を変えることができることを知ってほしい」という願いを込めています。